

# 第33回全国在日外国人教育研究集会・中九州（大分・熊本）大会にご参加を！

子どもたちの状況と私たちの課題を明らかにし、多文化共生教育を展開しよう！

## 第33回全国在日外国人教育研究集会（中九州大会）

私たち全国在日外国人教育研究協議会（略称、全外教）は、在日コリアンの子どもたちへの差別撤廃のとりくみを出発点にして、在日外国人と日本人の子どもたちの自立と連帯の場づくりを積極的に保障する運動や実践をすすめてきました。一九七九年に大阪の地で第一回全国研究集会を開催し、今年の中九州大会で三回目となります。一九八九年と一九九六年に福岡で開催されて以来、九州では三度目になる大会を大分と熊本の共同開催として行うことになりました。朝鮮半島、中国大陸に最も近い九州は文化の伝来や人の渡来などアジアとの交易の窓口でした。同時に一七世紀、薩摩の琉球侵攻に始まり一九世紀へ至るアジアへの侵略・植民地支配の前線基地でもありました。私たちは米軍基地の集中する沖縄の苦難をいまだに解決できていません。

大地震・大津波そして原発災害の危機に際して「がんばろう ニッポン」が強調され、国家意識の再編成によって復興をはかろうという動きが顕著になってきました。被災者の耐える、がんばる姿が多く報じられても、被災三県の外国人がどんな困難に直面しているか、私たちには伝わってきません。

熊本では中国人家族がある日突然入管により引き裂かれ、大村収容所に入れられるということがありました。教員や市民が裁判闘争を支え、この家族の在留を勝ちとることができました。九州では外国人や外国にルーツを持つ人々が安心して住み、暮らしていくことのできる行政施策や学校教育でのサポートが特に必要とされています。また大分県、特に別府市は外国人留学生の人口比率が高く、文化交流が盛んです。これをきっかけに在日外国人の在留資格、居住、職業、教育、医療など生活全般にわたる課題の理解が深まり、施策の拡充が望まれるところと

ころです。

大分県教委は一昨年、福岡市、福岡県に続いて「大分県在住外国人に関する学校教育指導方針」を策定しました。これを具現化し、名前やアイデンティティ、職業などすべての子どもの未来を保障するものに変えていかなければなりません。

お互いの経験や実践を出しあい、また、阿蘇の高原に集う子どもたちの生の声を聞く中で、私たちは多くを学び、豊かな多文化共生社会を実現していく上で何をしたらいいかを考える手掛かりにしたいと思えます。

九州の地で、これまでのアジアとの関係を見つめ直し、未来を語りあいましょう。



宮崎県南郷村 百済の里

- |                 |  |
|-----------------|--|
| 日程・内容           | 2012年  |
| 8月18日(土)        | 全外教出張講座<br>講師 金井英樹(全外教副会長)<br>大南公民館<br>(大分市中戸次 4491-2) |
| 8月19日(日)        | 開会全体会<br>別府市中央公民館<br>(大分県別府市上田の湯 6-37)                 |
| 8月20日(月)        | 分科会と閉会行事<br>野口ふれあい交流センター<br>(大分県別府市野口元町 12-43)         |
| 8月18日(土)～19日(日) | 全国在日外国人生徒交流会<br>国立阿蘇青少年交流の家<br>(熊本県阿蘇市一の宮町宮地 6029)     |
| 参加資料代           | 4,500円   |
| 申し込み            | 「開催要項」の申込用紙にて<br>(当日申し込みも可)                            |

主催：全国在日外国人教育研究協議会、第33回全国在日外国人教育研究集会・中九州大会地元実行委員会

後援：大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、別府市、別府市教育委員会、熊本県人権教育研究協議会、菊陽町、菊陽町教育委員会、菊陽町人権教育推進協議会、同歩会(予定)

連絡先：地元実行委員会・大分：大野(090-3602-0372) 熊本：大塚(090-7988-1736)